

「災害に負けない 病院を目指して」

石巻日赤の院長が講演

東日本大震災で津波（吉田茂夫院長）で活動被害を免れ、被災地の報告会に臨んだ。万一最前線で医療を担ったの災害への備えについて宮城・石巻赤十字病院で「インフラ整備や通（日赤）の飯沼一宇院長 信綱の確保、災害時に長が6日夜、北見日赤 支援してくれる善意団



「平時からの備えが大事」と指摘した石巻日赤の飯沼一宇院長

体の組織的な運用が欠かせない」と強調した。石巻日赤は、200

6年に海岸沿いから三陸自動車道そばの郊外に移転。地上7階地下

1階の免震構造で、一時的な停電はあったものの、大震災による建物の損壊はなかった。飯沼院長は「災害に負けない病院」のため、建物の構造や機能、設計といったハードと、人材や組織、訓練のソフトの両面の充実が欠かせないと指摘。また、改築を控えて災害拠点病院の機能を強化する北見日赤に対し、「災害時に帰宅できなくなるのが想定されるため、職員の非常用食料の備蓄を考えた方がいい」と助言した。吉田院長は災害時の体制整備に取り組む考えを示した。（相川康暁）

石巻日赤の院長が講演